

〔第14回〕

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

がん進展における糖鎖の役割

老化機構研究部 代謝研究室

山越 貴水 室長

2016年11月8日(火) 16時00分～
第1研究棟2階大会議室

腫瘍細胞や炎症を起こした上皮組織において、複数のムチンの発現や糖鎖付加状態が変化することが古くから知られている。実用化されているがんの診断薬には、シアリルTn抗原などの糖鎖抗原を特異的に認識するモノクローナル抗体が多く存在する。また、糖鎖修飾の変化はがんの進行やそれに伴って起こる浸潤性や転移性と関連していることが知られている。しかし、がん細胞における糖鎖修飾の変化ががん細胞の悪性度の獲得にどのように関与しているかについては未だによく解っていない。

私達は、遺伝子改変マウスを用いた実験から偶然に、がんの進行に関与すると考えられる糖転移酵素を介した経路を見出した。

糖鎖が関わるがんの進展メカニズムの一端を明らかにすることにより、新たな腫瘍マーカーの開発や他の病気の原因解明にも繋がる可能性がある。

座長：中島 美砂子